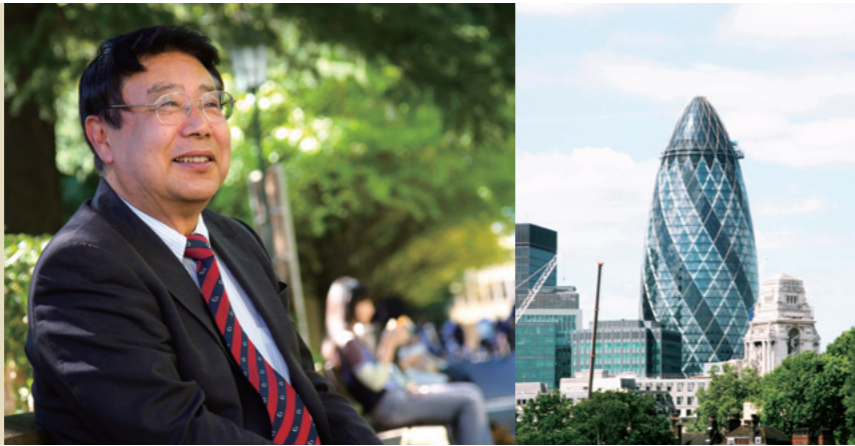


学問を究めた方の知識を取り込む。 今だからこそできる実体験に照らした学び



藤森さん撮影の写真。モダン・ロンドンの象徴「セント・メアリー・アックス」、通称「ガーキン」

会員特典を使って早稲田の図書館も利用しています、と話す藤森さん

学ぶ人
藤森 靖允さん
(2004年入会)

受講内容 「名表現を味わう」
—50首順に作家をたどる名文散策—
「イギリスの詩と絵画」
—文学的絵画鑑賞への誘い—など

藤森さんの 学びの履歴書

- 受講科目例 (一部)
- 2004 「イギリス詩入門」「イギリスという国」「知られざる大英博物館とその至宝」
- 2005 「イギリス絵画の魅力」「イギリスの生活文化の発達」「文章を楽しむ」「アイルランドの文化」
- 2006 「日本語と笑い」「ヴィクトリア朝の絵画を読み解く」「荷風 潤一郎」「イギリスぶらり旅」
- 2007 「名表現を味わう」「荷風 潤一郎」「恋のイギリス文学」「近代イギリスの歩み」「ステップアップ写真撮影術」
- 2008 「名表現を味わう」「ラファエル前派の世界」「漱石文学の世界」「19,20世紀イギリス史」「改革」するイギリス議会」
- 2009 「名表現を味わう」「英語の歴史的進化とイギリス文明の展開」「イギリスの詩と絵画」「漱石文学の世界」

藤森さんは、写真撮影術の講座も受講。07年、イギリスへの思いを、藤森さんが撮影した旅の写真とともに著書『もっと知りたいイギリス—歴史が生きる街をいく』(ぎょうせい刊)にまとめました。

そして、師である出口先生の著書にも、藤森さんの写真が使われるようになっています。

「教えていただいたご恩をお返しできるのでしたら、なんとも光栄なことです。今後は、続編をまとめることを目標に、勉強もイギリスへの旅も続けたいですね」と藤森さん。

「学問を究められた方の知識と知恵は偉大なもの。これを自分の中に取り込むことができる環境は本当に素晴らしいことです」

本で出会った出口先生とご縁を広げる場ともなったオープンカレッジ。ここで学ぶことはどんな意味があるのでしょうか。

「企業人を卒業した今だからこそ、自分の実体験と照らして、理解できることも多いんです。知識を増していくことが、幸せにつながる。それが学びの楽しさというものかな。これからの人生の過ごし方という意味で、重要な部分がここにありません」

開拓

ちのかいたく

知

ひとつの「学び」から得た発見が、
知の世界を広げてくれる出発点となります。

どのように学びを広げていくか、教える人と学ぶ人、それぞれの学問分野について
学びの出発点とこれまでをお聞きし、そのヒントを探してみました。

ぶれない軸を持つ。 続けていけば必ず鉅脈に当たります



現在、次の著書を執筆中という齊藤先生
授業では語感の美しさ味わってもらうために必ず朗読を行っています

教える人
齊藤 貴子先生

講義内容 「イギリスの詩と絵画」
—文学的絵画鑑賞への誘い—など

プロフィール

1973年生まれ。早稲田大学大学院修了、早稲田大学非常勤講師。専門分野はイギリス文学および文化。主な著書として、『も一度、人生がはじまる恋〜愛と官能のイギリス文学』(PHP新書)、『楽しいロンドンの美術館めぐり』(講談社)、『ラファエル前派の世界』(東京書籍)

齊藤先生の 学びの提言

最新著書紹介



『21世紀 イギリス文化を知る事典』
出口保夫 小林章夫 齊藤貴子編
東京書籍 定価9,500円(税別)
イギリスの地勢・歴史・社会・文化の諸相から、衣食住など暮らしの全般にいたるまで、イギリスの経験と知恵を学ぶための「読む事典」。

おすすめ図書 ～私の本棚から～



『図説 ロンドン塔と英国王室の九百年』
出口保夫著
柏書房 定価2,800円(税別)
11世紀からヴィクトリア朝の終わりまで、要塞、王宮、監獄として役割を果たしてきたロンドン塔の歴史を、幅広い層に向け豊富な図版と写真、分かりやすい文章で解説した書。

「英詩」の魅力に目覚めてから、現在までいっさい迷いがなかった、という齊藤先生。「むだのない言葉の中に、韻を踏んだ語感の美しさや深遠な思想も含まれている。なんて素敵な世界なんだろうと思いました」その魅力を伝えるため、講義で心がけていることは？

「受講生は、ほぼ私の親と同じ世代の方。人生の先輩である皆さんに私が教えるというのは、本来おこがましいことと常に思っているんです。ですから、先輩方の胸をお借りして、私の学んできたことを洗いざらいお伝えしようという気持ちです」

齊藤先生は、人生の先輩である受講生の皆さんから、社会との向き合い方など、学ぶことが多いと言います。

「たとえば死がテーマの詩の時など、私が伝えたいことを本当に良く分かっていくことは？」

「受講生は、ほぼ私の親と同じ世代の方。人生の先輩である皆さんに私が教えるというのは、本来おこがましいことと常に思っているんです。ですから、先輩方の胸をお借りして、私の学んできたことを洗いざらいお伝えしようという気持ちです」

齊藤先生は、人生の先輩である受講生の皆さんから、社会との向き合い方など、学ぶことが多いと言います。

「オーブンカレッジで、皆さんの反応を見ながら、自分自身のテーマを掘り下げ、どうしたら、的確に伝えられるか、日々学んでいます」

オープンカレッジが、教える人も学ぶ人も、ともに歩み、学びの世界を広げていく場所であるということ。

「学びの広がりとは、知を構築するということなんです。自分をいかに高め、耕していくかを意識したうえで、たとえば『イギリス』といったぶれない軸を持つ。そこから広がっていくのが、もつとも実のある学びの形ではないでしょうか。ずっと続けていけば必ず鉅脈に当たる。この場所ですんなり感覚を味わっていたらいいなと思います」

この場所と受講生とのコミュニケーションがとて好き、と齊藤先生。

「社会で勤め上げたあとに、こんな豊かな時間が待っている。私も歳を重ねたらこうありたいな、と思える場所なんです」